

(仮称) 大阪新美術館 公募型設計競技の結果について

大 阪 市

1. 設計競技の概要及び選定結果

大阪市は、(仮称)大阪新美術館の設計者選定にあたり、その設計提案を広く国内外から求めるため、公募型設計競技を実施しました。その実施にあたっては、第1次審査と第2次審査からなる2段階審査方式を採用するとともに、学識経験者で構成する「(仮称)大阪新美術館公募型設計競技審査評価会議」(以下、「審査評価会議」という。)を設置し、専門的見地からご意見をいただきました。

第1次審査では、68の参加者から設計構想提案書が提出され、この中から第2次審査に進むものとして5者を選定しました。引き続き、第2次審査では、この5者からより詳細な設計提案書の提出を受け、その審査において公開によるプレゼンテーション及びヒアリングを実施した上で、次の通り最優秀案及び次点案を決定しました。

【選定結果】

- 最優秀案：本競技登録番号：7 / 株式会社 遠藤克彦建築研究所
- 次点案：本競技登録番号：86 / 株式会社 日建設計 大阪オフィス

2. 設計競技の実施経緯

- ・平成28年7月に開催した第1回の審査評価会議では、本設計競技を2段階審査方式により実施すること、及び、「(仮称)大阪新美術館公募型設計競技実施要領」の内容について検討が行われました。
- ・第1次審査では、設計の基本的な考え方やゾーニング、動線計画等を記載した設計構想提案書の提出を求め、平成28年10月に第2回の審査評価会議を開催し、「適合性」「機能性」「創造性」「防災安全性」「環境性」などの視点から総合的な評価が行われました。
- ・第2次審査では、設計主旨や計画図等を記載したより詳細な設計提案書の提出を求め、平成29年2月に開催した第3回審査評価会議において、提案者によるプレゼンテーション並びに審査評価会議委員によるヒアリングを公開で実施した上で、「適合性」「機能性」「創造性」「防災安全性」「環境性」さらには「実現可能性」などの視点から総合的な評価が行われました。
- ・上記のような審査評価会議における評価も踏まえた上で、最優秀案及び次点案を決定しました。

平成28年6月16日(木)	予告公告の実施
平成28年7月26日(火)	第1回審査評価会議の開催
平成28年8月5日(金)	「(仮称)大阪新美術館公募型設計競技実施要領」の公告

平成 28 年 9 月 30 日（金）	第 1 次審査書類<設計構想提案書>の提出期限（参加者：68 者）
平成 28 年 10 月 11 日（火）	第 2 回審査評価会議の開催【第 1 次審査】
平成 28 年 10 月 19 日（水）	第 2 次審査に進む 5 者の選定結果の発表
平成 29 年 1 月 16 日（月）	第 2 次審査書類<設計提案書>の提出期限
平成 29 年 2 月 2 日（木）	第 3 回審査評価会議の開催【第 2 次審査】 （公開によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施）
平成 29 年 2 月 9 日（木）	最優秀案及び次点案の選定結果の発表

3. 審査評価会議

審査評価会議については、美術・都市計画・建築の各専門分野において、豊富な知識や経験を有する 7 名の委員にご協力をいただきました。また、委員長には、委員の互選により国立国際美術館館長の山梨氏が選出されました。

氏 名		所属・役職等	専門分野
委員長	山梨 俊夫	国立国際美術館館長	美術
委員 (五十音順)	逢坂 恵理子	横浜美術館館長	美術
	嘉名 光市	大阪市立大学大学院工学研究科准教授	都市計画
	岸 和郎	京都造形芸術大学大学院芸術研究科教授	建築
	相良 和伸	大阪大学大学院工学研究科教授	建築
	高田 光雄	京都大学大学院工学研究科教授	建築
	竹山 聖	京都大学大学院工学研究科教授	建築

審査評価会議 講評

（仮称）大阪新美術館公募型設計競技審査評価会議
委員長 山梨 俊夫

この度、（仮称）大阪新美術館について、公募型設計競技、いわゆる設計コンペが実施され、海外からの参加者を含む 68 者から設計提案がありました。

大阪市が所蔵する 19 世紀後半から今日に至る日本と西洋の近現代美術を中心とした作品群は、日本のみならず世界の美術館もうらやむ素晴らしいコレクションです。新しい美術館の建築については、コレクションの魅力を最大限に引き出す役目を担うのはもちろんのこと、建築とコレクションの相乗効果を通して新たな価値の創造につながることを期待されます。また、大阪市には、既に市立美術館（天王寺）や東洋陶磁美術館があり、建設予定地である中之島には国立国際美術館が立地していることから、新しい美術館が既存の美術館とは異なる独自性を備えることも肝要です。さらに、大都市大阪に位置する日本で最も新しい美術館として、これからの日本の美術館の方向性を示す存在となることを追求すべきと考えます。

こうした趣旨のもと、大阪市は新しい美術館の設計提案を広く国内外から募るに至ったのです

が、その大阪市の想いに応えるように、多くの設計者の方から提案が寄せられたことについては、心からの感謝を禁じえません。我々は、審査評価会議委員としての重責を感じながら、大阪の新しい美術館にふさわしい設計提案を求めて、平成 28 年 7 月から平成 29 年 2 月までの間、3 回にわたって会議を開催し、真摯に議論を重ねてまいりました。

第 1 次審査では、68 者から、我々、委員の予想を上回る創造性に富んだ提案が出され、その絞り込み作業は非常に困難なものとなりました。提案内容が偏ることなく多様な案が 2 次審査に進めるよう配慮しつつ、委員それぞれの専門領域を活かしながら意見を出し合い、5 者を選定しました。

第 2 次審査では、全ての提案が第 1 次審査に示された内容からさらに練り上げられ、また、公開によるプレゼンテーションや委員からのヒアリングでは、本設計競技に対する設計者の熱意が伝わってきました。いずれも甲乙つけがたい充実した設計提案であり、委員間でも評価が分かれ、新しい美術館がめざすべき姿との整合性や各提案の評価すべき内容について、熱心な議論が交わされました。その中でも、特に最優秀案及び次点案については、未来への可能性を感じさせる魅力的な提案であったと考えています。株式会社遠藤克彦建築研究所が提案した最優秀案については、シンプルで存在感のある外観や、黒い直方体を切り欠くように立体的に配置され自然光が降り注ぐデザイン性の高いパッサージュ空間が、(仮称)大阪新美術館の独自性につながるとともに、建物周囲に巡らされたデッキや、道路に面して配置されたカフェ・レストランが、まちの回遊性や賑わいの向上に貢献するとして高く評価されました。また、株式会社日建設計大阪オフィスが提案した次点案については、敷地北側と南側の双方に広場を設けるなど、まちに開くことを強く意識している点が評価されました。

一方で、第 2 次審査に参加した 5 者いずれの提案についても、周辺のまちとの関係性や美術館としての機能性の確保といった観点から、改善が望ましいいくつかの点が見受けられたことも事実です。

美術館にとっては、来館者や利用者にとって快適で満足が得られ、また、美術館を運用する人にとっても機能性に優れ使いやすいことが重要です。最優秀案を提案した株式会社遠藤克彦建築研究所におかれては、今後の設計業務において、大阪市、とりわけ新美術館建設準備室のスタッフと協議を重ね、その意見をしっかりと取り入れ、共同作業のもと提案内容のさらなるブラッシュアップを図っていただきたいと考えています。

(仮称)大阪新美術館が、新たな美術館像を提示し、市民が全国にそして世界に誇れる存在となることを心より願います。

○最優秀案

【本競技登録番号 7 番：株式会社 遠藤克彦建築研究所】

パッサージュを美術館のスパイン（背骨）と位置づけるとともに、展示ホール、ホワイエ、さらには屋外空間であるアートデッキもパッサージュの一部ととらえ、吹き抜け空間を介して立体的につながることで、“さまざまな人と活動が交錯する都市のような美術館”を提案している。1・2 階にサー

ビス施設や管理エリア、パッサージュを中心としたコミュニケーションエリアを配置し、3階に保存・収蔵エリア、4・5階に展示エリアを配置する簡潔な構成となっている。また、建物外周にアートデッキを配置し、地上レベル、デッキレベル双方で各方面からのアクセスができるよう計画されている。

本提案は、浮かび上がるような外観について、シンプルで存在感があり、また、黒い直方体を切り欠くように立体的に配置され、自然光が降り注ぐデザイン性の高いパッサージュ空間が、新しい美術館の独自性につながるとして高く評価された。また、敷地周辺との連続性を意識して建物周囲に巡らされたデッキは、まちの回遊性の向上に資するとして好評価を得た。さらに、十分な広さを確保し、休館時の利用も想定して東側歩道に面して配置されたカフェやレストランは、来館者サービスの向上だけでなく、エリアの賑わい創出を促すものとして積極的に評価された。

以上のように、中之島エリアのまちづくりに対して様々な創意工夫が盛り込まれた魅力的な提案であり、コスト面を含めた実現可能性に関してもバランスのとれた提案であることから、本設計競技の最優秀案にふさわしいと判断した。

なお、最優秀案として選定するにあたり、審査評価会議の中で次のような意見が出されてもいるので、今後、大阪市と十分な協議を図りながら設計を進め、より良い提案となるよう努められたい。

＜審査評価会議からの意見＞

駐車場と屋外広場を兼用する提案となっているが、屋外でのアクティビティに対する空間のあり方について、さらに練り上げてもらいたい。また、美術品の搬出入動線と来館者動線の整理や企画展示室とテーマ展示室の一体的利用など、運営面も考慮に入れた展示室・収蔵庫のレイアウトやその周囲の空間の充実を図られたい。また、災害時におけるBCP（事業継続計画）を考慮し、熱源の多重化に向けた検討を加えられたい。

○次点案

【本競技登録番号 86番：株式会社 日建設計 大阪オフィス】

南側に大きく広場を設け、(仮称)大阪新美術館、国立国際美術館、市立科学館の3つのミュージアムの中庭(彫刻広場)とする提案である。展示収蔵庫棟及びその下部を利用した舟入広場を敷地北側に、駐車場・管理エリア及びその上部を利用した彫刻広場を敷地南側に配置し、この2棟を敷地を南北に貫くパッサージュでつなぐ構成となっている。

本提案は、他の提案と一線を画した独自性の高い配置計画を提案し、まちにひらくことを強く意識しているとともに、熱源の多重化など防災安全性や環境性にも配慮されている点が評価された。一方、パッサージュと展示フロアを大型エレベーターで結んでいる空間構成に対する懸念の声や、展示収蔵庫棟を大掛かりな構造を用い高床式に持ち上げている点について、コスト面や施工面などの実現可能性に関する意見が出され、最優秀案に及ばないと判断した。なお、本提案については、2次審査の提案に際し、展示収蔵庫棟の外観や高床式の柱形状を変更しているが、1次審査における提案の方が構造計画のダイナミックさを直接的に表現した清々しい印象であったとの意見もあった。

○その他の提案（登録番号順）

【本競技登録番号 31 番：株式会社 佐藤総合計画】

堂島川・土佐堀川それぞれの対岸からの一体的なつながりを大切にし、さらに国立国際美術館・市立科学館とも強く結ばれた、縦横につながる橋としてのパッサージュを提案している。

本提案は、同一階に並列して配置された展示室や収蔵庫が整形で自由度が高く、美術品の搬出入動線や来館者動線も明快であることから、機能的で使い勝手がよいとの意見があったが、ガラスカーテンウォールをまとう外観デザインが、（仮称）大阪新美術館としての独自性という観点から魅力に乏しいとの意見や、広大なアトリウム空間にかかる光熱費に対する懸念が示され、最優秀案及び次点案には及ばないと評価した。

【本競技登録番号 40 番：株式会社 榎総合計画事務所】

屋上広場を段状に配置し、立体的に連続する広場群で建物の外観を形成するとともに、その広場群と融合するようにパッサージュを立体的に構成した提案である。

本提案は、提案としての完成度が高く、公共空間に対する強いメッセージ性が感じられる点や、明快なコンセプトのもと、アーバンキューブと呼ばれるオリジナル空間を提案している点が評価できるとの意見があった。このアーバンキューブに関しては、提案コンセプトを将来にわたって実現するには運営者の負担が大きいとの意見も出された。また、ガラスを多用したアーバンキューブ部分にかかる光熱費に対する懸念も示され、最優秀案及び次点案には及ばないと評価した。

【本競技登録番号 47 番：梓設計・RUR ARCHITECTURE DPC 共同企業体】

敷地全体を使って建物を配置し、自然光の降り注ぐ半屋外のアトリウム空間である「クリスタルパッサージュ」を美術館のシンボルとして中央に設けるとともに、建物の屋上部分を全面的にオープンな広場とした提案である。

本提案は、独創的な外観デザインや様々な高さで構成された屋上空間の積極的な活用など、非常に意欲的な提案であるとの意見があったが、展示室や収蔵庫内に柱が多く配置されている点や、美術品の搬出入動線に傾斜がある点など、このままでは美術館の利用に好ましくないとの意見も出され、最優秀案及び次点案には及ばないと評価した。